

インクの色のはしぎ実験



説明

二つの色の絵の具をまぜて、もとの色とちがった色を作ったことがあると思います。それとは反対にまじった色をわけるにはどうしたらいいだろう？

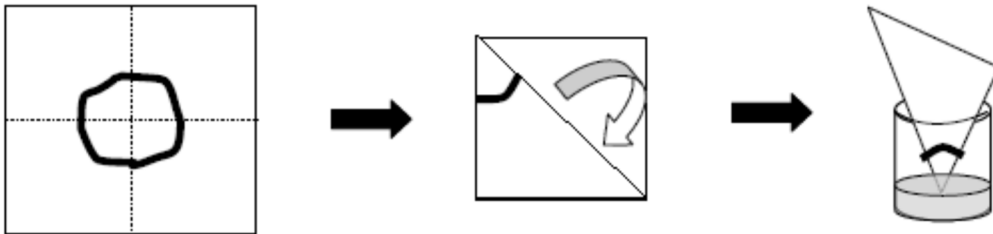
インクはいくつかの色素をまぜて色を作っています。この色素がどのようなになっているか見てみましょう！

材料

- 水性ペン
- 紙ナプキン、コーヒーフィルターやキッチンペーパー（白色）
- 透明なカップ
- 水

実験のやりかた

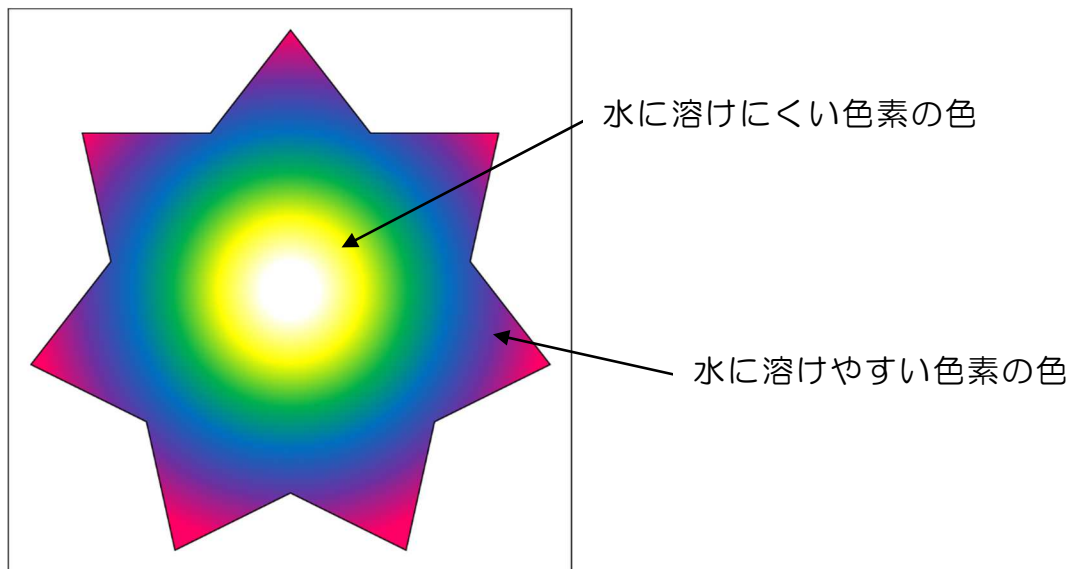
- ① 紙ナプキンの中心に水性ペンで円（5cmくらい）をかきます。
- ② 紙ナプキンを四つ折にして、さらに三角に折ります。
- ③ 中心の部分だけが水につくように（※インクは水につけない）、ビーカーに紙ナプキンを入れて、
- ④ 2分くらい待ちます。
- ⑤ 2分たったらビーカーから紙ナプキンを取り出して広げます。



* 水性ペンで書いた線が水につからないように気をつけよう

なぜ？どうして？

インクの色は赤や青などの色素を混ぜて作られています。水に溶けにくく、紙にくっつきやすい色素はあまり広がりませんが、水に溶けやすく、紙にくっつきにくい色素は水といっしょに広がっていきます。こうやって色をわけることができるのです！



環境分析センターでは、紙と水のかわりにいろいろなものを使って、調べたい物をわけて取り出したり、量をはかったりしています。